# 新商品発表会でトークセッショ

後、実際にシステムを導入・運営している企業担当者らのト 開発した自動車部品メーカー向けパレット(容器)の調達・ や素材メーカーから約50人が参加。 両システムの概要説明の ティア1(大手部品会社・一次業者)の自動車部品メーカー 官理業務をD×化するシステム「アイパス (iP αS)」と クセッションも行われた。 エヌシステム」の新商品発表会を名古屋市内で開催した。 五十鈴グループ(代表・鈴木勝CEO)は7月30日、自社

効果について語った。

鈴

## システム導入 の効果を実証

ついて「パレット製造の 導入前のパレット調達に 流管理課担当組長)は、 氏(生産・物流管理部物 したフタバ産業の木村優 テム「アイパス」を導入 レット調達支援シス や手戻り、リードタイム からのニーズをもとに機 があったと指摘。1年半 の長時間化」などの問題 ほど前にアイパスの初期 工場で運営する中で現場 バージョンを導入し、6

ことで起こる情報の停滞 さまざまな部署を介する 専門的担当者への依存、 能を追加してきた。 足元では「パレットの

バ産業特別顧問 見解を語る吉貴フタ

> 門の情報が一元管理でき ど調達情報の進ちょくが るのは大きい。値決めな 仕様を決定する各工場部 つの画面で追えるよう ができる」と期待を寄せ 流効率化につなげること らに部品の在庫管理や物

整合性を取っていた課題 ーカーでは「生産管理と を導入した自動車部品メ ステムーエヌシステム トのリアルタイム検知シ を解決するため、パレッ いうカテゴリーにおいて ついて、コストをかけて (海戦術で出荷と製造の

パレットの搬出入一括管 理で工数が削減できる。 鈴木CEO 参加者を前に語る

パレットの稼働状況でモ で物流全体の流れを把握 は製造部門とのヒモ付け 調した。その上で「今後 は大きなメリット」と強 できるようになれば、さ ノの流れを把握できるの ングの検証やティア2へ よる積載効率化なども可 必要がある」と、自動車

# 自動車部品SCの DX課題も話題に

化できている」と、導え になり業務はかなり効率 パレットの出荷管理に だろう。こうしたシステ 化は日本では新しい着想 吉貴寛良氏は「パレット 現フタバ産業特別顧問の ムの活用で、顧客に製造 による業務・物流の効率 の荷姿や主要コスト削減 元トヨタ自動車常務で るかが課題」としたうえ におけるDX化の推進に 作業ダイヤや配車計画の で「集荷作業員の負荷、 事をどれだけ少なくでき ついても意見交換した。 車部品サプライチェーン している」ことを明らか きるような仕組みを検討 作成など顧客から書類を 木村氏は「専門的な仕

双方の立場からの見解を 付けていくか。物流の2 の発注などを考えていく 能なのではないか。 競争 語った。 メーカーと部品メーカー 性向上にどのように結び ・出荷情報を出すタイミ 合わせ、パレット形状に 力強化、原価低減、収益 になって具現化していき スが可能か、現場と一緒 ら次にどのようなサービ たい」とした。

ャンスでもある」と言及 024年問題は大きなチ て『未来社会づくりへの ープは長期ビジョンとし 貢献』を掲げている。ア 鈴木社長は「当社グル

もらって自動的に算出で うえで「アイパスは将来 参加者は、今後の自動 針について触れた。その きたい」と今後の開発方 ーズをうまく捉えて、次 に展開してプラットホー 的にパレット以外の品目 場から出てくる課題やニ X化につながっていくと ヌシステムは部品データ と参加者らを前に語 トしたばかりの段階。現 ムともまだ検証がスター 岡睦騎常務は「両システ ざまな追加課題を一つず 鈴ビジネスサポートの朝 のサービスにつなげてい ムの開発に携わった五十 ム化することも検討。エ アイパスとエヌシステ どん展開していきたい 1にとってはニッチな課 ターゲット分野はティア 題領域だと思うが、さま ーションの開発に注力 を持って課題解決ソリュ ープの強み。スピード感 講じられるのが当社グル アルに認識して解決策を 思う。現場での課題をリ 動車部品の物流全体のD し、新商品・機能をどん つ解決していくことが自 イパスとエヌシステムの

駆使すれば、よりきめ細 かい積載法や部品の組み 吉貴氏は「AI技術を し、履歴をストックした と物流データをヒモ付け